

小学校国語科 授業改善事例Ⅱ

第6学年「書き表し方を工夫して、よさを伝える文章を書こう」 (全6時間)

内容のまとめり 第5学年及び第6学年

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

重点的に指導及び評価する指導事項 B(1)ウ

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

1 本单元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のアプローチ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「児童の学びの姿」と児童の学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが大切です。

本单元においては、次のような視点で授業改善を図ります。

	児童の学びの姿	本单元における教師の働きかけ
「主体的な学び」	自分の学習活動を振り返って次につなげる。	・身に付けることができた資質・能力を振り返る場面を設定する。
「対話的な学び」	児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	・児童が自他の考えの共通点や相違点に気付くことができるように、ICTを活用して、互いの考えを比較する場面を設定する。
「深い学び」	情報を精査して考えを形成する。	・収集した情報を比較や分類したり、関係付けたりして情報を整理し、それを基に自分の考えを形成する場面を設定する。

2 本单元の概要

(1) 単元の目標

- ① 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- ② 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- ③ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- ④ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元で取り上げる言語活動

日本文化のよさについて、書き表し方を工夫して文章を書く。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)	①粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

(4) 本単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○言語活動のモデルとして、教師が作成した文章を基に、文章全体の構成や書き表し方の工夫について交流する。 ○単元の学習活動の見通しをもつ。	- 言語活動のモデルとして、教師が作成した文章を基に交流することで、文章全体の構成や自分の考えたことが伝わるような書き表し方の工夫に気付くことができるようにする。 - 気付いた工夫を「よさを伝える文章を書くポイント」として確認する。 - 言語活動のモデルとして、教師が作成した文章を示すことで、単元の学習活動の見通しをもち、各自で学習計画を立てることができるようにする。	単元において、児童の学習状況を適宜把握する場面を設定します。ここでは、〔記録に残す評価〕のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため〔指導に生かす評価〕を適宜行います。
2・3・4	○日本文化について考え、書く題材を決める。 ○選んだ題材のよさとそれを支える理由や事例となる情報を集め、記録する。 ○集めた情報を整理し、【つなげる図】（資料1）を用いて、文章全体の構成を考える。	- ウェビングマップを用いて、日本文化から連想される言葉や情報を書き出し、それを基に、題材を決めることができるようにする。 - 図書資料やインターネットの資料から、選んだ題材のよさと、それを支える理由や事例となる情報を集め、ワークシートに記録するよう促す。 「始め」、「中」、「終わり」を視覚的に捉え、筋道の通った文章となるように、【つなげる図】を用いて文章全体の構成を考えることができるようにする。 - 集めた情報を比較や分類したり、関係付けたりして整理し、【つなげる図】の「中」の部分に入れることができるようにする。 【つなげる図】を基に、優先順位を考えて簡単に書く部分と詳しく書く部分を考えるなど、相手に分かりやすく伝わるような文章全体の構成を工夫し、書き表し方の工夫につなげるよう促す。	〔知識・技能①〕 【つなげる図】・観察 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができているかの確認 〔思考・判断・表現①〕 【つなげる図】・観察 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えているかの確認
5・6	○【つなげる図】を基に、下書きをする。 ○下書きを見直す。 ○下書きを修正し、清書する。 ○単元の学習を振り返る。	- 選んだ題材のよさとそれを支える理由や事例を、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることを意識し【つなげる図】に追記するよう促す。 - 選んだ題材のよさがよりよく伝わる文末表現などを確認し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。 - 下書きを見直す際は、単元の導入で児童と確認した、「よさを伝える文章を書くポイント」を示し、それを基に見直すことができるようにする。その際、互いの下書きを読み合い、1人1台端末を用いてコメントを相互に記入して送るよう促す。 - 完成後は考えたことや書き表し方のよさを友達と伝え合い、自分の文章のよいところに気付くことができるようにする。 - 自分の考えたことを伝えるために、どのように書き表し方を工夫したのかを振り返ることができるようにする。	〔思考・判断・表現②〕 【つなげる図】又は、ノート等の記述・観察 ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 振り返りの記述・観察 ・粘り強く書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしているかの確認

3 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例

(1) 児童の「自分の学習活動を振り返って次につなげる」姿を実現する教師の働きかけ

児童の学びの姿

自分の学習活動を振り返って次につなげる。

「主体的な学び」
の実現に向けて

教師の働きかけ

身に付けることができた資質・能力
を振り返る場面を設定する。

児童が自分の学習活動を振り返って次につなげることができるようにするために、身に付けることができた資質・能力を振り返る場面を設定することが大切です。本単元では、単元の導入で、児童が単元を通して身に付ける資質・能力を捉え、単元の見通しをもつことができるようにします。そして、その見通しを基に、1単位時間の終末や単元の終末において、児童が自分の学習活動を振り返り、次の学習活動につなげることができるようにします。

《単元の学習活動の見通しをもち、学習計画を立てる場面（第1時）》



前単元の読む学習では、日本文化のよさについて学習しましたね。そこで、日本文化のよさを伝える文章を書いてみました（資料2）。先生は、日本文化のよさが読む人に伝わるようにどのような工夫をしたと思いますか。

日本人のマナー
私たちが住む日本は、礼正しい国として知られている。日本人は、公共の場でのマナーを重んじている。また、遠足では、ビニール袋を持参し、ごみを持ち帰るようにしている。自分が使った場所を、来たときよりも美しくして帰ることが幼いころから定着している。

近年、サッカーワールドカップでの日本人サポーターの姿が話題となった。日本が敗戦した際に、観戦していた日本人サポーターが、スタジアムのごみを拾っていたからだ。自分が使った場所を美しくして帰ろうとする姿こそ日本人ならではのマナーだ。

このように、日本人は幼いころからマナーを重んじて育っていることで、公共の場でのマナーが身に付いているのである。



資料2 言語活動のモデルとして教師が作成した文章

よく見ると段落ごとに書いている分量が違います。



児童A

先生は、簡単に書く部分と詳しく書く部分を考えて、文章を書いたのではないのでしょうか。



児童B

なるほど。ほかには、どのような工夫があるのかな。



児童C



ほかにも「よさを伝える文章を書くポイント」がありそうですね。日本文化のよさを伝える文章を書く活動を通して、書き表し方を工夫することができるようになりましょう。では、単元を見通して学習計画を立てましょう。

《自分の学習活動を振り返る場面（第1時～第6時）》

1 単位時間の終末の振り返り（第5時）



今日の学習活動を振り返りましょう。また、それを基に、次の学習活動にどのようにつなげるか考えて書きましょう。

教師

今日は、下書きをしたけど、次は、もう少し文末表現に気を付けて和食のよさが伝わるようにしたいな（資料3）。



児童A

第五時のふり返し

友達の意見を生かして、簡単に書く部分とくわしく書く部分に気を付けて下書きをすることができた。

次の時間は、「ならではだ」のような文末表現を使って書くことで、和食のよさが伝わるようにしたい。

資料3 第5時における児童Aの振り返り

単元の終末の振り返り



単元の学習活動を振り返りましょう。また、それを基に、実際の生活にどのように生かすのか考えて書きましょう。

教師

この単元で身に付けた書き表し方の工夫を、今度は、読書感想文に生かしてみよう（資料4）。



児童A

単元のふり返し

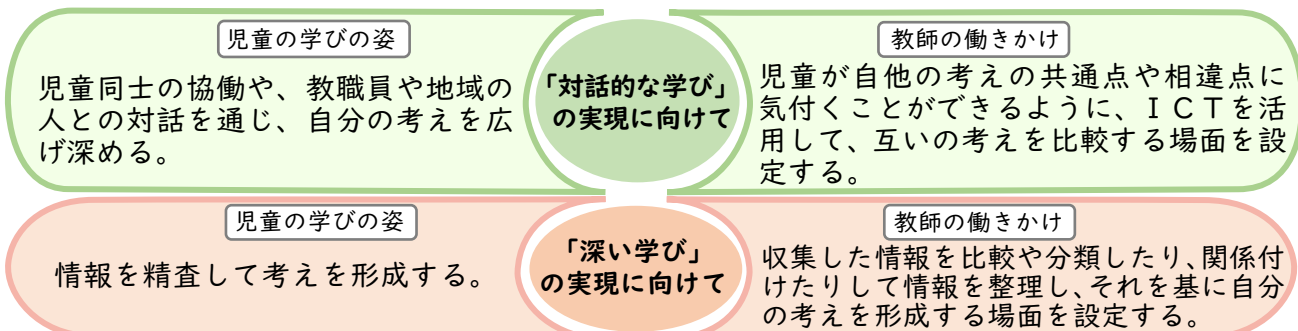
この学習で、和食のよさが伝わるように簡単に書いたりくわしく書いたりすることができた。また、文末表現を工夫することで和食のよさがより伝わることが分かった。

学んだことを、今度の読書感想文に生かしたい。

資料4 第6時（単元の終末）における児童Aの振り返り

児童が自分の学習活動を振り返って次につなげることができるようにするために、1単位時間の終末や単元の終末において、身に付けることができた資質・能力を振り返る場面を設定することが大切です。

- (2) 児童の「児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める」姿と「情報を精査して考えを形成する」姿を実現する教師の働きかけ



児童が自分の考えを広げ深めながら、情報を精査して考えを形成できるようにするために、情報を整理したり、互いの考えを比較したりし、それを基に自分の考えを形成する場面を設定することが大切です。本単元では、単元の後半で、児童同士の対話を通じ、集めた情報を整理したり、ICTを活用して互いの考えを比較したりすることで、文章全体の構成を考え、下書きを見直すことができるようになります。

《集めた情報を整理し、【つなげる図】を用いて、文章全体の構成を考える場面（第4時）》

教師 ワークシート（資料5）を見ながら、自分が集めた情報同士を比べたり、関係付けたりして整理しましょう。整理を進める中で、必要なときは、友達に相談してもいいですよ。

児童B 私が集めた情報の「栄養」と「見た目」には、外国の方からの人気が高いという共通点があるね。ほかにもあるかな。

児童A お節料理などの「行事食」は、いんどりやかざり付けがきれいだから、「見た目」と関係付けられそうだよ。

児童D 確かにそうだね。そう考えると「行事食」は、歴史や伝統もあるから、「歴史」とも関係付けられそうだよ。

そうだね、では、その4つのよさを取り上げよう。

取り上げたよさと、その理由や事例を【つなげる図】の「中」の部分に入れて、文章全体の構成を考えましょう。

「栄養」「行事食」「見た目」「歴史」をどのような順で書くと、和食のよさが読む人に分かりやすく伝わるかな。

1番目と4番目（【つなげる図】の「中」の部分の①と④）に、特に伝えたいよさについて書いたらどうかな。

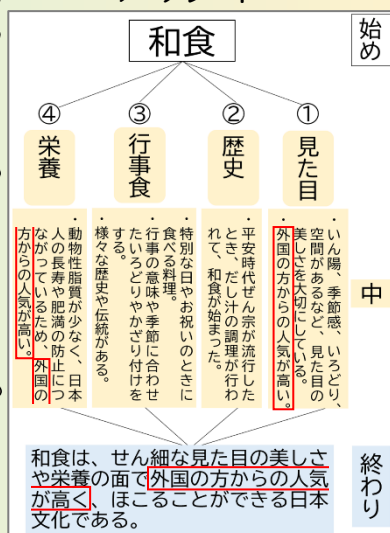
そうだね。まず、「見た目」について詳しく書こう。次に、「歴史」、「行事食」を簡単に書いて、最後に、「栄養」について詳しく書こう。「終わり」の部分ははどうしようかな。

特に伝えたいよさである「見た目」と「栄養」の共通点から和食のよさについてまとめてみたらどうかな。

なるほど。外国の方からの人気が高いということは、外国の方にもよさが伝わっていると言えるね。「終わり」の部分では、このことを基に和食のよさについてまとめよう。

和食					題材
歴史	郷土料理	見た目	行事食	栄養	よさ
・平安時代から続く調理が行われて、和食が始まる。	郷土料理は、その地域の気候や文化に深く関わっている。	外国の方からの人気が高い。見た目も美しい。	行事食は、季節感や特別な日やお祝いなどに合わせて、和食が盛んな。	動物性脂肪が少なく、日本人の健康に良い。	理由や事例

資料5 児童Bが情報を集めたワークシート



資料6 児童Bが文章全体の構成を考えた【つなげる図】

《【つなげる図】を基に、下書きをする場面（第5時）》

集めた情報を整理し、相手に分かりやすく伝わるような文章全体の構成を考えることができましたね（資料6）。では、【つなげる図】を基に、下書きをしましょう。

児童Bは、下書き（資料7）をする。

和食のよさが伝わるように書き表し方を工夫して、下書きをすることができました。

和食のよさの一つは、見た目の美しさだ。立体的で、高低を付けた盛り付けがある。季節感、空間の美しさから外国の方にも人気が高い。和食は、平安時代から始まった。和食は「栄養」

資料7 児童Bの下書きの一部

《下書きを見直し、修正、清書する場面（第5～6時）》



選んだ題材のよさが伝わるように、書き表し方を工夫できているか、「よさを伝える文章を書くポイント」（資料8）を基に、下書きを見直しましょう。

和食のよさが伝わるように、文末表現をもう少し工夫したいな。友達は、どのような書き表し方をしているのかな。



友達の下書きを参考にしてみてもいいですよ。

Cさんの下書き（資料9）には、「**ならではだ**」という文末表現があるね。私の下書きのどの部分に加えるといいか、Cさんに相談してみよう。

児童Bは、児童Cに相談に行く。

Cさん、私も「**ならではだ**」という言葉を加えてみようと思うけれど、下書きのどの部分に加えるといいかな。



ぼくは、日本の花火のよさの中でも、特に伝えたいよさの「形」の部分に「**ならではだ**」という文末表現を使ったよ（資料9）。

なるほど。私も特に伝えたいよさの「見た目」の部分に加えてみよう（資料10左）。

児童Bは、下書きを見直し、修正する。

修正が進んでいますね。コメント欄（資料10右）にある友達からのアドバイスや感想も参考に、更に見直して修正し、清書としましょう。

Dさんのコメントを参考に「見た目の美しさこそ、外国の方からの人気が高い理由だ」と書いてみよう。

《単元の学習活動を振り返る場面（第6時）》

日本文化のよさを伝える文章を書くことができましたね（資料11）。単元の学習活動を振り返りましょう。また、それを基に、実際の生活にどのように生かすのか考えて書きましょう（資料12）。



単元の振り返り
友達に相談したり、何度も考え直したり、何をしたことで、和食のよさが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができた。
学んだことを、図書委員会でのよさを伝えるときに生かしたい。

資料12 第6時（単元の終末）における児童Bの振り返り

「よさを伝える文章を書くポイント」

- ① 簡単に書く部分とくわしく書く部分を考えて書く。
- ② 事実と感想、意見を分けて書く。
- ③ 選んだ題材のよさが伝わるような文末表現で書く。

資料8 よさを伝える文章を書くポイント

花火 児童C

日本の花火の美しさその力は、技術の細かい感覚や職人の高さは、日本や火薬を配置して、日本のから、その美しさ、球の形、花火が生み出しているのだ。

資料9 児童Cの下書きの一部

資料10 児童Cからのアドバイスを参考に修正した児童Bの下書き及びコメント欄

和食 児童B

私たちの住んでいる日本、そのよさの一つは、見た目、高さを付けた盛り付けや、季節感、空間などへの配慮は、和食ならではだ。その美しさこそ、外国の方からの人気が高い理由だ。和食の歴史は、平安時代から、外国の方からの人気が高い理由だ。

コメント欄:

- 児童D 外国の方からの人気を伝える「み」の文、文末表現が加えられそうだね。
- 児童A 「よさ」を「み」と書き表してもいいね。
- 児童C 「～と」を「～と」という文末の言葉で意見を表している。

資料10 児童Cからのアドバイスを参考に修正した児童Bの下書き及びコメント欄

資料11 児童Bの清書

和食 児童B

私たちの住んでいる日本、そのよさの一つは、見た目、高さを付けた盛り付けや、季節感、空間などへの配慮は、和食ならではだ。その美しさこそ、外国の方からの人気が高い理由だ。和食の歴史は、平安時代から、外国の方からの人気が高い理由だ。

資料11 児童Bの清書

児童が自分の考えを広げ深めながら情報を精査して考えを形成するために、情報を整理したり、互いの考えを比較したりし、それを基に自分の考えを形成する場面を設定することが大切です。